

事業計画書（実績書）

令和3年 3月 10日

団体名 田楽研究所

事業の目的 (何のために行う事業なのかなど、事業の趣旨や目的を記入してください。)	綾部への移住を希望する人と綾部の接点を作る。本事業を契機として移住希望者が綾部市に通う機会を継続的に創出し、まず「交流人口」を増やすことを目指す。並行して、交流人口の中から定住へと発展していく人を増やす。
事業の名称	「リモート田楽学校」開催事業
事業費 (市補助金)	2,042,591円 (2,000,000円)
補助金の使途 (団体活動のどんな事業経費に補助金が充当されるか記入してください。)	「リモート田楽学校」開催事業に要する経費に充当しました。 ・リモート田楽学校開催に係る経費 ・田楽研究所冊子作製費 ・ホームページ作製費 等
事業実施期日	令和2年8月4日～ 令和3年2月28日
事業実施場所	綾部市内
事業の概要 (事業の実施方法、内容について記入してください。)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のコワーキングスペースを貸り、各教室において授業形式で1～4時間目の授業を実施。 ・授業は「古民家のリノベーション」「移住者の体験談」など、田舎を楽しむための多種多様な内容で、講師は主に市民ボランティアが務め、インターネットを利用したリモートで実施した。 ・同時に撮影した動画を編集し、アーカイブとして、新たに開設したホームページに授業動画として掲載。また、ホームページを活用し情報発信を継続して行っている。 ・また、田楽学校についてまとめた冊子を作成し市内外に広く配布している。
補助金の効果—(成果)— (計画書では期待できる効果を、実績書では得られた成果を記入してください。)	<ul style="list-style-type: none"> ・「リモート田楽学校」には、千葉県、大阪府などの都市部から移住を考える人などがリモートで参加し、基調講演には約100人が参加、それぞれの授業にも20人から30人程の参加があり、どれも大変好評で来年度の継続実施につながる取り組みとなった。 ・移住希望者が、里山暮らしに役立つ知識や技術を身につけられ、また、先輩移住者の経験などを聞くことによって、移住の検討を具体化させる効果、移住への意欲を高める効果が期待できる。

収支予算書（計算書）

令和3年 3月 10日

団体名 田楽研究所

（単位 円）

	区分	予算額	収入済額	明細
	収入の部	市補助金	2,000,000	2,000,000
その他収入		500,000	42,591	
合計		2,500,000	2,042,591	
	区分	予算額	支出済額	明細
	支出の部	報償費	200,000	30,000
旅費		100,000	0	特別講師交通費
需用費		590,000	592,270	チラシ、冊子印刷
役務費		600,000	196,000	広告宣伝費
委託料		600,000	728,392	H P 作製費
使用料及び賃借料		110,000	86,004	会場使用、機材借用等
備品購入費		300,000	409,925	リモート実施に要する機材等
合計	2,500,000	2,042,591		
差引		0	0	